

氏名	小出 恵子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	博士（看護学）
学位授与番号	博甲第5175号
学位授与の日付	平成27年 3月25日
学位授与の要件	保健学研究科 保健学専攻 (学位規則第5条第1項該当)
学位論文の題目	保健師を対象としたリフレクションに基づく 保健指導技術向上プログラムの効果
論文審査委員	谷垣 静子 教授、西田 眞壽美 教授、深井 喜代子 教授

### 学位論文内容の要旨

本研究の目的は、保健師を対象としたリフレクションに基づく生活習慣病予防のための保健指導技術向上プログラムの介入効果を検討することである。

本プログラムは3か月間に4日間である。アウトカム評価では、対照群と保健指導技術の変化を比較した。保健指導技術は、参加者が模擬患者と保健指導を行い、終了後に双方が評価指標に沿って評価した。アウトカム評価はベースラインと直後、3か月後に実施した。また、プロセス評価では、リフレクション過程で生じた介入群の変化を明らかにした。

介入群と対照群は各11人であり、基本属性に有意差はみられなかった。多元配置分散分析の結果、介入群の自己評価では2項目が対照群より有意に低く、他者評価では有意差はみられなかった。内容分析の結果、介入群は自己の課題を自覚し、改善策を模索しながら、専門職として学び続ける意欲を高めていたが、学んだことを実践で活かす難しさを実感していた。

プロセス評価の結果より、介入群がリフレクションを促進していることが明らかになった。しかし、介入群は、対照群と比較して保健指導技術の向上はみられず、本プログラムの効果は認められなかった。

日本地域看護学会誌17(3) 未定2015

キーワード：保健指導技術、リフレクション、生活習慣病、介入研究、保健師

### 論文審査結果の要旨

本論文は、10年以下の保健師を対象に、リフレクションを取り入れた保健指導技術向上プログラムの介入効果を検討した研究である。プログラムの期間は3か月間であり、うち4日間が実施日である。アウトカム評価では、対照群を設け保健指導技術の変化を比較している。本研究までに、保健指導技術項目を作成し、段階的に研究に取り組んだ点において評価できる。しかし、プログラムの効果を図る尺度の妥当性が明確でない点、リフレクションを客観的に評価するものがない点など、課題を残す。

以上、課題を含みつつも、本論文は、保健指導の効果的な学習プログラムの開発に向けての第一歩を踏み出すことができた。今後期待できるものと思われる。

よって、総合的に判断し、本論文が、岡山大学大学院保健学研究科博士後期課程の博士号（看護学）に値するという結論に達したので報告する。